

令和5年度 学校経営方針

1 教育目標

人権尊重の理念を正しく理解し、健康で自ら学ぶ意欲にあふれ、自然と平和を愛し国際社会に貢献できる人間の育成を目指す

- 生命を尊び 思いやりの心をもつ . . . 「徳」
- 自ら考え たくましく生きる . . . 「知」 「体」

2 教育ビジョン

行きたい学校 帰りたい家 住みたい地域

3年間の教育活動を通じて、生徒一人一人の自己肯定感の向上を図り、自己実現に向けてよりよく成長させることを目指す。

《 目指す学校像 》

- 夢や希望を育むことができる学校
- 安心して安全に生活できる学校
- 生徒・教職員一人一人が自己存在感を感じることができる学校
- 保護者が信頼することができる学校
- 地域が誇ることができる学校

《 目指す生徒像 》

- 自ら学ぶ意欲があり、ひたむきに努力する生徒
- 公正な判断をし、責任をもって行動する生徒
- 自他を尊重し、支え合える生徒

《 目指す教師像 》

- 生徒と向き合い、粘り強く指導する教師
- 研究心に富み、授業で生徒を育てる教師
- 組織の一員として、意欲的に課題解決に取り組む教師

3 重点目標

《 確かな学力の定着 》

- 授業を通して基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに思考力・判断力・表現力を育成する学習を展開し確かな学力の育成を図る。
- 課題解決に向け ICT を活用し、主体的に取り組むための指導を充実させる。
- 朝読書や放課後補充学習活動の充実、家庭学習の定着により基礎・基本の定着を図る。

《 生活指導の充実 》

- 子供たちの主体性を生かす生活指導の推進により生徒一人一人の自己肯定感を高める。
- 問題行動発生時は迅速・的確・誠実に対応し、早期解決を図る。
- あらゆる場面において人権に配慮し他を思いやる心を育み、いじめ・いやがらせを許さない態度を養い命の大切さの理解を深める。

4 具体的方策

(1) 学習指導

① 教科指導

- ア 授業改善推進プランを基に指導内容・指導方法の工夫・改善を進める。
 - ・学習規律やノート指導、板書等の共通理解を図り授業を展開する。
 - ・自分の考えを多様な方法で表現させ、共動学習を導入する。
 - ・個に応じた指導を徹底し、躓きを取り除き、知識・技能を定着させる。
 - ・既習事項を活用した問題解決型、探求型の学習を展開する。
- イ 授業力の向上、適正な評価により、学ぶ意欲を高める。
 - ・校内研究をはじめ、各種研修会に参加し授業力の向上に努める。
 - ・評価基準の明確化を図り、学ぶ意欲を高める。
- ウ 人権を意識した適切な言語活動の充実を通して、多様な能力の育成を図る。
- エ 小中連携による9年間を見通した指導体制の整備を推進する。
- オ 朝読書の効果的活用と放課後補充学習の充実により学力の底上げを図る。
- カ 家庭学習の重要性を認識させ、その定着に全校で取り組む。
 - ・家庭での学習方法の指導 ・宿題の工夫（ICTの活用等）
 - ・生徒・保護者の意識啓発と家庭との連携

② 道徳教育

- ア 道徳の授業時間の適正な確保をし、全教育活動を通して心の教育の充実を図る。
 - ・生命尊重や思いやり（いじめを許さない）の心の育成 ・規範意識の醸成
- イ 内容を工夫し、自分を振り返る時間を重視する。
 - ・副読本の効果的活用 ・外部講師等の効果的活用
- ウ 道徳授業地区公開講座を充実させる。

③ 総合的な学習の時間

- ア 全体計画に基づく実施と指導内容の工夫・改善により、ねらいの達成を目指す。
- イ 学びをより深める中で思考力・判断力・表現力を伸長する。

④ 特別活動・その他

- ア 学級活動を充実させ、望ましい学級づくり、学校生活の基盤づくりを図る。
 - ・生徒一人一人の居場所づくり ・自己肯定感の向上 ・話し合いの重視
- イ 学校行事を通して、教科等の授業では経験することのできない所属感や連帯感、成就感や達成感を感得させる。
 - ・行事の目的やねらいの明確化 ・集団の一員であることを自覚し役割を担う
- ウ 生徒の主体的な活動を重視する。（生徒会、委員会、係活動、部活動）
- エ 学校図書館活動を工夫し、学習・情報センター機能や読書センター機能を充実する。
- オ 部活動を通して、個性を伸長し、健全育成を目指す。
 - ・よさや可能性の伸長 ・自己有用感の醸成 ・我慢する力の育成
 - ・成就感や達成感の感得

(2) 生活指導

- ① 正しい生徒理解に基づく指導により、よさや可能性を伸ばし、生徒一人一人の自己肯定感の向上を図る。
- ② 地道な活動を組織的に積み重ね、基本的な生活習慣を生徒一人一人に着実に確立させる。
 - ・挨拶 ・時間を守る ・身だしなみ ・環境整備
- ③ 集団の力を高める指導と内省を促す温かな支援の充実を図る。
 - ・いじめのない学校づくり ・集団の自治能力の育成 ・集会の機会を大切に

- ④ 問題行動には対話を積み重ねることにより、内省が図られるまで粘り強く指導する。
 - ・保護者への連絡・相談を誠実にかつ細やかに行い、迅速に対応する。
 - ・どのような生徒を育てたいかに基づく指導基準の明確化と共通実践
 - ・毅然とした態度での粘り強い指導 ・安全で安心な学習環境の確保
 - ⑤ 組織として役割を分担し、迅速・的確・誠実な対応を心がけ、家庭や関係機関と連携して、問題の早期解決を図る。
 - ・情報の正確な集約と円滑な報告・連絡・相談
 - ・課題に応じた組織としての段階的な指導の迅速・的確な実践
- (3) 進路指導
- ① キャリア教育の視点から発達段階に応じた生き方の指導の充実を図り、人としてどのように生きるかを考えさせる。
 - ② 自己理解を深めさせ、情報の提供、体験的に学習の実施により、望ましい勤労観や職業観を育成する。
 - ③ きめ細かな個別指導により、夢や希望を抱いて主体的に進路を選択できる能力を育成する。
- (4) 特別支援教育
- ① 町田市特別支援教育ハンドブックの内容を踏まえ、ユニバーサルデザインの視点に基づいた取り組みを充実させる。
 - ② 合理的配慮を踏まえた指導の充実を図る。
 - ③ 教育相談の充実、特別支援教育の視点による個に応じたきめ細かな支援を推進する。
 - ・教育相談能力の向上によるカウンセリングマインドに基づく指導・支援の充実
 - ・スクールカウンセラーの効果的活用 ・要支援生徒の把握と支援計画の作成
 - ・専門的支援を受けられる関係機関との行動連携
 - ④ 不登校傾向にある生徒やコロナ感染症等で欠席している生徒の心のケアや学習の保障を丁寧に行う（タブレット端末の活用等）
- (5) 健康・安全・食育指導
- ① 全教育活動において安全管理を徹底し、事故防止を図る。
 - ② 安全指導の充実により、学校内外における事故防止を推進する。
 - ・交通安全 ・防災教育 ・犯罪被害防止
 - ③ 健康増進と体力の向上を目指し、保健体育の授業、学校行事、部活動等の全教育活動を通して、心身を鍛える指導の充実を図る。
 - ④ 適正な保健管理、きめ細かな保健指導により、健康・安全に係る環境整備や健康教育を推進する。
 - ・保健計画に基づく学校保健の充実（健康診断の適正な実施、健康教育の推進）
 - ・歯科に係る指導の充実
 - ・様々な疾病や事故に対する関係機関との円滑な連携
 - ⑤ 食生活を向上させる指導の工夫・改善により、望ましい食習慣を確立する。
 - ・食への感謝の気持ちの醸成 ・マナーの習得
- (6) 新型コロナウイルスへの対応
- ① 「学校の新しい生活様式」に基づき生徒・教職員の健康を守る取り組みの充実を図る。

5 学校運営

- (1) 学校組織における個々の役割を確認し着実に実践するとともに、学年や分掌等を超えて積極的に助け合い円滑な学校運営を推進する。
- (2) 事案決定（学校の意思決定）系統を踏まえ、計画的な企画、円滑な運営をする。
- (3) 分掌・委員会における課題の把握、改善を視野に入れた目標の設定により、校務を執行する。
 - ・主任や委員長を中心にした組織的な運営
 - ・主任や委員長による進行管理の徹底
- (4) 学校経営方針に基づく学年・学級経営により、生徒一人一人の所属感、自己有用感の醸成と自己肯定感の向上により、集団としての力を伸ばす経営を目指す。
- (5) 近隣小学校との連携により、小中一貫連携教育を推進する。
 - ・系統的な学習計画に基づく学力向上
 - ・9年間を見通した一貫性のある生活指導
- (6) 開かれた学校づくりを推進する。
 - ・コミュニティ・スクールの推進。
 - ・PTA活動、青少年健全育成活動との連携
 - ・広報活動の充実（学校公開・学校説明会の実施、ホームページの定期的更新、たよりの定期的発行、諸会合における情報提供）

6 サービスの厳正

- (1) 教育公務員として、職務を適正に実行する。
 - ・全体の奉仕者であることの自覚
 - ・人権意識に基づく適切な言動
- (2) 体罰・交通事故・わいせつ行為など、信用失墜行為の撲滅を目指す。
- (3) 個人情報適切な管理を徹底する。
- (4) 保護者の負担軽減、明朗で適切な会計管理を着実に実行する。
- (5) 適正・効率的な事務処理と適切な予算執行を推進する。
 - ・出退勤管理システムの適切な運用
 - ・文書起案の徹底
 - ・明朗な会計事務処理（含む教材費・部活動会計・親睦会費等）
 - ・書類等の提出期限の遵守
 - ・週案簿の適切な記入および毎週末の提出（単元名・ねらい、時数の累計等）
 - ・円滑・適切なコミュニケーションによる組織的で効率的な職務遂行
 - ・節約と意図的・計画的な物品購入

7 OJT・研究・研修

- (1) OJTの日常化を推進する。
- (2) 課題に即した校内研究・研修の充実を図る。
研究主題「特別支援・教育相談の充実と様々な教育課題への対応」
- (3) 外部研修への積極的参加を推進する。
 - ・中教研、教科等教育課題研修（都教職員研修センター）をはじめとする研修の奨励
 - ・指導教諭の師範授業への全教科参加